

こども環境サミット 2005

「持続可能な社会に向けて行動を起こそう」

愛知県環境部環境政策課こども環境サミット準備室 Kiyotaka Matsuba
室長 松葉清貴

1. こども環境サミット 2005 とは

2005年7月26日～29日、愛知県豊橋市・豊田市・2005年日本国際博覧会（愛知万博）会場において「こども環境サミット2005」が開催される。これは愛知万博（開催期間：2005年3月25日～9月25日）の関連事業として国連環境計画（UNEP）とこども環境サミット2005実行委員会（環境省・愛知県・豊橋市・豊田市・2005年日本国際博覧会協会・協賛企業で構成）が共催する子ども達（10歳～14歳）の国際会議である。

2. 開催概要

サミットでは、「持続可能な社会に向けて行動を起こそう」のテーマの下に引率者も含め1,000人の参加者が集い、自分たちの環境活動の発表を通してお互いの理解を深めたり、ワークショップ・フィールドトリップなどの体験学習から自然の仕組みや人間が環境に及ぼす影響などについて学ぶ。また、愛知万博に参加し、万博のテーマ「自然の叡智」を体感したり、いくつかのグループに分かれて地元の小・中学校を訪れ、その小・中学生たちとさまざまな交流をする。

幅広い環境問題について話し合うため、ダイテマ★を「エネルギー」、「森林と生物多様性」、「水」、「リサイクル」と決めた。参加する子どもたちは、「アクショングループ」という20名程度の小グループに分かれ、毎日1回、その日の体験やこれまでの自分の国や地域での経験を話し合い、共有する。そして、ダイテマ★に関して自分たちがすべきことや、政府などに求めていくことについて意見を出し合い、最終日に「宣言文」としてまとめる予定である。



3. 子ども主体の会議

こども環境サミットは子どもの主体性を尊重した会議を目指している。大人のお仕着せではなく子ども達による子ども達の会議の実現である。そのために世界の子どもの代表からなるジュニアボード（運営委員会）が、実行委員会とともに企画段階から参画している。メンバーはアメリカで開催された第5回会議で選出され、日本の子ども4名を含む世界8か国11人である。

ジュニアボードは、2004年10月に愛知県に集まって意見交換を行っており、前述のサミットテーマ、ダイテマ★もその時にジュニアボードが決定したものである。その後もインターネットを通して討論を続けており、サミット本番でも運営など重要な役割を担うことになる。



4. おわりに

21世紀の地球環境を担う子ども達が環境問題についての理解を深め、環境を改善するための新たな行動に向けた契機となる事業として、この会議への期待とその役割は大きなものである。

人間社会にとって子どもの存在と役割は大きなものがあり、子ども達の言動が家庭や企業の環境配慮や行政の取り組みにさえ影響を及ぼすことがある。会議の成果が多様なルートで世界に浸透し、各地域で新たな環境保全活動に繋がることを期待したい。

注釈：★ダイテマとは、日毎のテーマのこと。